

陸軍少年戦車学校の記録 P4



草に伏し 故郷の虫を 夢にさへ

昭和十三年志那事変戦場にて

P3
P4

神様、武運長スク祈ル

日記の欄外に次の言葉が大きく太く書いてありました。

八月二十四日・警戒しつゝ夜が明ける。敵は目前の河一つ離れた家屋だ。時々弾を放つ。何処からうつともわからない。一日は第一戦にして暮れる。夕方、波止場に水を汲みに行っている間に、二年兵殿が足をやられる。心細くなる。そのまま夜の警戒。迫撃砲が頭上にて破裂。「発ばかり身体にはうばうと当たる。生きたうさぎなく夜が更け

ある出征兵士の日記

広報ひがしの

人口1642人
(男)834人
(女)808人
637世帯
(R4.11.1現在)

疎開地としての東野

P2

七十七年、長い歴史の中ではほんの一瞬に思えます。

歴史は繰り返すとも言いますが、大きく振れた振り子がもとにもどり、この短い期間に逆の方向に振ればじめています。

ウクライナや台湾の状況を見るにつけ、暗雲が立ち込め始めた思いです。

私たちは、先の大戦の反省から、不戦の誓いをしたはずです。しかし、戦争を知るもののが少なくなり、その意識が薄れてきたのも確かです。

平和を引き継ぐことは大切であることはわかりますが、具体的に何をしたらよいのか戸惑います。まずは、戦時下の故郷の姿をいつまでも語り継ぐことが大切であると思い、今回の記事を特集いたしました。

戦後七十七年

東野としての疎開地

学童の疎開

昭和二十年
三月十一日

に名古屋空襲があり、ほとんどの学校が焼けてしましました。多くの学童が田舎へと疎開しました。東野村にも御劍小学校の児童が宗久寺に来たという記録があります。疎開はその年の十一月まで続いたそうです。

軍服の疎開

空襲が激しくなると、人間ばかりでなく、大切なものが都会を離れて田舎へ疎開しました。

軍は、日本各地の民間倉庫会社に軍服の疎開を依頼しました。この

地方は名古屋にある東陽倉庫という会社です。東陽倉庫は、駅に近く大きな民家が点在する田舎を探しました。結果、東野村が条件に合っているということで、中部地方の軍服の疎開地に東野村が選ばれました。

東野村は、駅（東野駅）に近くて物流が便利で、しかも空襲のリスクが少なかったからです。

また、養蚕をするので、多くの家が大きくな造りで倉庫にするのに適していました。

東野駅で降ろされた物資は、一旦、東野小学校に運ばれ体育室（講堂）に保管されました。それから、各民家へと分散して運ばれてきました。

高等科の児童はそれぞれの民家へ分散し荷下ろしを手伝わされました。

軍需工場の疎開

学童や軍服同じように、兵器工場も空襲から逃れるために疎開をしました。

東野村には、中島飛行機の工場が疎開してきました。中島飛行機といえばゼロ戦を造ったところです。もちろん小さな部品の製造だったと思われます。

場所は、恵東座です。床をすべてはがして、全面コンクリート張りにして、そこへ旋盤を持ち込んでの作業です。

この時ばかりは、歌舞伎小屋も軍需工場に代わってしまいました。

学校（教習所）の疎開

東野に疎開していた国鉄の教習所へ入所した社員の当時の手記です。（鉄道新聞より）

昭和二十年五月十六日、郷里の駅を一番の列車で出発しました。

昭和二十年五月十六日、郷里の駅を一番の列車で出発しました。

おふくろが風呂敷包みの荷物を抱え、私はトランクを肩に担いで家を出ました。改札口を出て、跨線橋手前の柵越しに「元気で頑張れよ」といって風呂敷包みを渡してくれました。無言で受け取り、足早に跨線橋に上がりホームに出たら、おふくろの手を振る姿が見え、思わず涙が出てきました。

東野に着いたときは、二年生の先輩たちが迎えに来っていました。この東野という村は、養蚕が盛んなところでした。戦時中なのでもちろん蚕はいませんでした。蚕室が空いていて、これを生徒寮や教室に使ったのです。



ある出征兵士の日記



この日記は、東野在住の青年が二十才を迎えて出征する前後の日々の記録を残したものです。一兵卒の立場で書かれた日記からは、当時の兵士の状況が手に取るよに伝わってきます。時は、昭和十二年、日中戦争が始まる年です。日記は、その年の正月から始まります。

どんな状況下でも、日記は毎日もれなくついておりましたが、この日は、一部を抜粋して紹介します。

一月五日(出征前) 外は雨うらう。ゆづくり寝る。門出の支度。日は落ちるのに暮れていく。何だか淋しい。

一月七日(出征前日) 門出の支度。七日市へ行つて来る。夜は来客多数。おおいに騒がれる。これより一年半、祖父母、母、姉、妹としばしの別れだ。達者でいてくれ。

一月八日(出征日) いよいよ出発。飛び起きて神社に参拝。

お暇乞いをして八時に家を出る。九時三十分発車の十一時四十分名古屋着。名古屋駅前の旅館に宿泊。

三月三日 大隊の軍装検査。午前9時40分整列終わり。10時より検査。午前中に終わる。午後は内務実施。大隊長が交代する。明日は、聯隊の軍装検査がある。

一月九日 午前九時、名古屋駅前の旅館を出発。熱田神宮を参拝。松坂屋に寄り、浜松へ行く友達を見送り午後一時に岐阜着。聯隊へ身体検査に行って来る。

一月十日(入營日) 午前六時。七時半兵當到着す。郡別別れ、中隊別、判別、衣服類、あらゆる準備をなす。兵當生活の一 日は終わる。大いに奮発してやろう。・・一生の思い出の第一日

一月十一日 入隊したのは岐阜の長森にあった陸軍歩兵第六十八聯隊です。日記の記述には、第九中隊とありました。

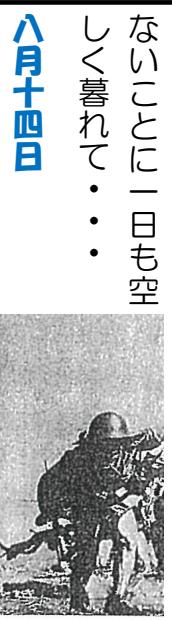
一月二十九日 今朝は大変寒かった。銃剣術の練習。午前中の演習は正照準。午前中は早く終わり室内にて行ふ。午後は、照準伏射の演習。給料をいたぐ。一年兵殿は夜間演習あり。

日記を拝見してまず気付くことは、検査が多いということです。人数点呼に始まり、軍服検査、兵器検査等々です。

八月十四日 今まで静かな営内が一度に騒ぎ立つてしまふ。いよいよ戦線だ

五月八日 待ちに待った軍旗祭りが今日だ。7時半整列。練兵場へ行き分裂式が終わりたる時、10時頃たつた。班内一同会食し、衛兵に行かれた二年兵殿が見えない為に一抹の寂しさ。今日は、中隊当番で忙しくて少しも面白くなかった。しかし、無事に終わって何よりでした。明日から一段と気合を入れて奮発してやろう。奮闘努力。

八月十三日 上等兵勤務を命ぜられル午前7時整列終わる。今日は長良川にて毛布洗いだ。小生監視人として、自動車で行く。行きすぐ洗いに入る。なかなか洗えない。暑い暑い一時頃には準備をして一服。2時30分頃帰る。そして直ちに日直上等兵として服務、何だか何だか分からぬことに一日も空しく暮れて・・・



動員下令

中国上陸の兵士

歩兵第六十八聯隊は、八月二十三日に上海近郊に敵前上陸をしました。

八月一十三日 今朝見れば陸地が見える。目的地近くだ。夕方目的地に着き、荷物を上げる中に、射撃を受ける。忽ち応戦。約一時間かかって十一時頃第一戦に着き、夜明けには最前線に着き、警戒す。

日記の欄外に次の言葉が大きく太く書いてありました。

神様、
武運長久ヲ祈ル

八月二十五日 7時を期して飛行機の爆撃があるためにここを引き揚げる。中隊本部の配置に入つて警戒。暑いのにいかれてしまう。はやく戻りつけなければいけない。

歩兵第六十八聯隊は上海の攻略を果たし、その後、南京攻略に向かいります。

十一月十二日正午前進詔印。南京まで一時間。連続行軍にて午後一時、田指す南京通済門に到着。門は堅く閉められてゐる。

略

日記の作者は昭和十六年に復員し、戦後の復興に尽力されました。



もう一つの戦場 陸軍少年戦車学校の記録

日に終戦になりましたので、
17日付けで休暇届けが出され、
そのままになつたようです。



東野在
住で15
歳の年齢
で、七期
生として
静岡にあ
る陸軍少
年戦車学校に入學し、卒業を待たずし
て終戦を迎えた少年がいました。

了修證書

陸軍生徒

右者陸軍少年戦車兵

學校ノ課程ヲ半ヘタリ

昭和二十年八月十五日

仍テ茲ニ之ヲ證ス

陸軍少年戦車兵學校長

木川田庸夫

陸軍大佐

正五位勳四等

昭和二十一年八月十五日

陸軍少年戦車学校は、当時、少年航空兵学校と並んで双璧をなすものでした。

愛称を若獅子、丘タンクと呼び、航空兵学校は、若鷲と呼ばれています。

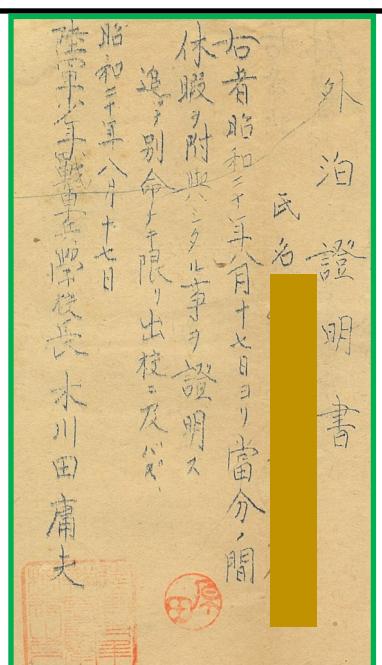
一期生から七期生まで在籍しました
が、一期生の入学生は、525名で、

応募者は8229名で、実際に55倍の倍率でした。狭き門でした。



1. 朝空高く聳え立つ
不二の神嶽仰ぎては
悠久無限皇国の
大義不動の信高め
誓は堅し若桜
われらは神のつはものぞ

2. わが日本の本は神の国
神にまします大君の
御楯のほまれいってきて
みことかしこみ一すじに
忠魂武胆凝るところ
命も何も惜しからん



親族の方からお借りしたのものは、修了証書と外泊許可書、そして校歌の書いた楽譜です。

8月17日付けの外泊許可書には、「追つて別命なき限りは出校に及ばず」と書かれています。また、8月15日付けの修了証書には、生徒の名前が白紙になっています。

終戦直後でよほど混乱していたことが伺えます。

ちょっと昔の東野を知ろう 第2回 東野勉強会

2年前に刊行した東野アーカイブスの一環として「東野勉強会」を実施しました。

今回は昨年に引き続き2回目になります。

講師に小野川の三宅一嘉さんをお招きし、特に、戦時中からその後の昭和の時代を振り返っていました。

お話を内容は、大きく3点、蚕の話と歌舞伎の話、そして戦時の東野の様子です。

東野の養蚕



より、東野は蚕種で栄えた所です。○○館と屋号がついている家は、昔、蚕の種屋でした。例えば、大正館、や伊藤館、篠原館と呼ばれたところです。画用紙に種を張り付けて売りました。

養蚕という

戦時中の様子

名古屋空襲の音が東野まで聞こえました。大映座(映画館)より映画のフィルムを借りてリヤカーで運んでいました。公文橋のところで、西の方からドーンという音がしました。それが名古屋空襲の音でした。

その空襲でほとんどの名古屋の小学校が焼けてしまつたので、名古屋から小学生が東野へ疎開してきました。その子たちは、宗久寺に泊まりました。勉強も生活も宗久寺でしたので、地元の子供たちと交流することはありました。

戦後の様子

東野も例にもれず、歌舞伎でした。時期になりました。上組は公会堂で、下組は宮の前の西尾一郎さん宅で練習をしました。

すると歌舞伎の練習ばかりやっていました。演田は西田とも同じで、一日目で失敗したことについて田田で修正しました。

保古尻より上の山は、原野でしたので雑木を切って、それを集めて、焼いて炭を造りました。その炭をカマスに詰めて家に持ち帰りました。その日の日当は、そのカマス一杯の炭でした。それほど貧しかったです。持ち帰ったカマスは、しばらくの間外に置いていました。なぜかというと、まだ炭に火が残っていることがあります。すぐに家中にいれてしまうと火事になる恐れがあるからです。実際に火事になった家があったそうです。

よく空襲警報が鳴りましたが、学校に近い子は、家へ避難しましたが、遠い子は、恵東座の軒下に避難していました。

苗木を植樹しました。あれから七十年ほど、木も大きく成長しています。



三宅一嘉さんの講演の中に、保古の湖のスケートの話がありました。それを聞かれた千藤市議が昔のスケート靴をコミセンに持つてみました。

なんでも昔の懐かしいものに興味があるそうで、オークションで買ったとのことです。

物は、下駄スキーです。今のスケートは、スケートの刃が靴についていますが、それ以前は、下駄に刃がついていました。

下駄だと足首が固定できずに、くねくねするので、足首を荒縄でぐるぐる巻きにして滑ったそうです。

今回貸していただいた下駄スキーにはうっすらと前の持ち主の名前が書いてあります。どうも女性の名前のようにです。どうりで小ぶりな感じがしました。

コミセンにしばらくお借りしていますので、見てみたいという方は、ぜひ来てください。

東野ふれあい作品展にも展示させていただきました。



なつかしいスケート靴？

三宅一嘉さんの講演の中に、保古の湖のスケートの話がありました。それを聞かれた千藤市議が昔のスケート靴をコミセンに持つてみました。

なんでも昔の懐かしいものに興味があるそうで、オークションで買ったとのことです。

物は、下駄スキーです。今のスケートは、スケートの刃が靴についていますが、それ以前は、下駄に刃がついていました。

下駄だと足首が固定できずに、くねくねするので、足首を荒縄でぐるぐる巻きにして滑ったそうです。

今回貸していただいた下駄スキーにはうっすらと前の持ち主の名前が書いてあります。どうも女性の名前のようにです。どうりで小ぶりな感じがしました。

した。

稻刈り体験

東野地区地域学校協働活動

（月）に4年生と5年生の総合的な学習で、稻刈り体験が行われました。



5月に植えた苗が順調に育ち、黄金の稲穂が頭を垂れています。

サツマイモの収穫

当団は天氣にも恵まれていましたが、雨上がりでしたので、地面からの湿気が多く、蒸し暑い状況でした。

子供たちは、教えてもらったように、鎌で稲を刈り、小さな稲の山を作っていました。

その後PTAの方たちの奉仕作業になりました。

春に植えたサツマイモの苗が成長し収穫の時期を迎えるました。十月二十六日（水）の朝から東野小学校二年生の児童が学校の畑でサツマイモの収穫をしました。品種は、安納芋と紅はるかです。推進員の丸山さんと東雲会の松浦さんの支援でたくさんさんのサツマイモが収穫できました。

除草作業



今年は雨に恵まれ稲穂も順調にそだちましたが、草もよく育ちました。小学校の運動場も、運動会を前に草に覆われてしましました。そこで、少しでも除草のお手伝いをしようと、事務局と推進員とで草取りをしました。軽トラの後ろに鉄の爪とブラシをつけて引っ張りましたが、なかなか取れるようなものではありません。ついには諦めてしまいました。

子供たちの教材にしたいということで、東野音頭のルーツを探しました。曲の入ったテープはありました。音頭ができる経緯などの記録があまりありませんでした。そこで、地域学校協働活動の推進員である丸山文憲さんにお願いして、調べていただきました。

昭和22年ごろ、貴船・若宮神社の境内で旧暦の2月の初午の日に青年団の男女によって盛大に踊られていたそうです。

東野音頭の原作者は市川広利さんで、作詞は西尾狂果さんでした。西尾狂果さんは俳句者で、本名は西尾利一さんです。

当時の地域の様子

第2次世界大戦が終わり、東野国民学校が東野小学校と名前が変わったころです。戦後の荒廃の時期で、日本が最も貧しい時でした。東野の住民も生きていいくために

東野音頭のルーツを探る

先日、東野小学校の校長先生が見えました。曲の入ったテープはありませんが、音頭ができる経緯などの記録があまりありませんでした。そこで、地域学校協働活動の推進員である丸山文憲さんにお願いして、調べていただきました。

東野音頭のルーツ

昭和57年第1回東野の納涼夏祭りが開催されましたが、その時はまだ、東野民謡クラブで踊られていました。東野民謡クラブは、西尾甲子男さん、神谷正枝さん、土方千恵子さんたちが中心となつて活動してみました。

昭和63年の第7回の東野納涼夏祭りで、東野音頭が復活しました。その背景には、当月中野方音頭が話題となつており、この地域にも東野音頭があるということで復活の声がかかりました。原作者の市川先生と公民館長の西尾さんらが相談し、復活に乗り出しました。当時の小学校長の西尾嘉夫先生も協力し、音楽室を練習の場に貸し出しました。当時の伊藤公博さんの指導により、生演奏も加入了。小学生にも踊りを教え、総括者の伊藤公博さんは大成功でした。

継承された歴史

世の中が落ち着くにつれ、歌舞伎などの娯楽に興味が移り、昭和26年ごろから途中一時停滞気味になりました。

お詫びと訂正

広報ひがしの10月号の「第18回恵那市陸上競技大会」の記事の中で、人名の間違いがありました。謹んでお詫びし訂正させていただきます。

誤 池戸 陸
正 池戸 陸人

（令和四年十月一十七日）

花無山句会自選句

- ・花菖蒲 草の中から 一握り 市川芳子
- ・蠅打てど 打てば逃げられ 老ひの腕 千藤猛司
- ・越焼いて 栗の一年 終わりけり 千藤恵三

東野地域安全パトロール

(12・1月) 金曜日16:00~17:00

12月

9日	東野開発振興会
16日	東野開発振興会
1月	
13日	東野自治連合会（上）
22日	東野自治連合会（下）
27日	東野小PTA



乳幼児学級 すくすくクラブ

10月は東野「子ども園」を訪問しました。園の子ども達と一緒に人形劇団「むすび座」による「ぐーとぐー」「ぐるんぱのようちえん」を観ました。すくすくクラブの子ども達もいいひと時を過ごすことが出来ました。

- * 施設及び設備を破損または汚したときは、直ちに届け出、職員の指示に従ってください。（届け出がない場合、発見した場合は、以後の使用は許可できなくなります）
- * 今後とも皆様が気持ちよくご利用いただけますようご理解とご協力をお願いします。

- * 利用後は机・椅子・座布団などを使用したものを元の場所に戻し、除菌・掃除機・モップ掛け・窓の施錠・ガスの元栓確認などをお願いします。

「使用許可申請書」での申請が必要になります。「コミュニティセンターや3ヶ月前から申請可能となります。また電話でのお問い合わせは仮申し込みとなります。必ず窓口にて「使用許可申請書」に記入して頂くようお願いします。

施設利用されるかたは、「使用許可申請書」での申請が必要になります。

春に植えたサツマイモの苗が大きく成長し収穫の時期を迎えました。子ども園でも小学校でも園や学校の畑のサツマイモの収穫が行われ、子ども達がその大きさに歓声をあげていました。

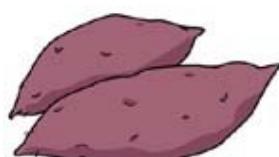
ただの芋ほりですが、これがまた大変で、スコップや備中で耕せばすぐ収穫できるように思えますが、いきなり道具を使うと間違いなく芋を傷つけてしまいます。なので手で掘るのが基本です。

サツマイモは掘つてみると、一本田からは一本目を抜いた後のすきまができるので意外と簡単に掘れています。三本目、四本目などだと楽に掘り出せます。要するに、一本目を頑張れば一本目からはさほどのことではないのです。

しかし、掘つてみると、一本田からは一本目を抜いた後のすきまができるので意外と簡単に掘れるのです。三本目、四本目などだと楽に掘り出せます。要するに、一本目を頑張れば一本目からはさほどのことではないのです。

だんだんとコツがわかつてきて、掘り進めて行くと、気づけば全部終わっていました。

「大変だな」と思われることも最初の一歩を踏み出せば、意外と楽に片付く」など教訓じみたことを感じたサツマイモの収穫でした。



発行

東野コミュニティセンター 8-6-1-555
東野地域自治区運営協議会 8-6-1-144